鯉城

第65号

平成25（2013）年1月20日

広島市中区国泰寺町1丁目2番49号
〒730-0042　広島国泰寺高等学校内
鯉城同窓会
電話(082)241-9777　FAX(082)248-7341
E-mail　rijo@orion.ocn.ne.jp
URL　http://www.rijo.gr.jp

念願の同窓会館オープンへ

オープンの日を待つ鯉城同窓会館

総工費7500万円　3月に落成

念願の鯉城同窓会館の建設は、昨年（平成24年）7月に始まり、今年1月23日の竣工祭を経て、3月27日に落成式が開かれる。ようやく迎える完成の喜びとともに、卒業生や現役の後輩たちに幅広く役に立つよう、今後の活用が期待される。

前号の鯉城同窓会報（64号）でもお伝えしたが、会館の位置は母校敷地の北東部にあったプールの跡地。広さは約265平方メートル。建物は鉄筋コンクリート造り2階建て。1階には玄関ホールや大会議室、倉庫など、2階には同窓会事務室や資料室などを設ける。総工費は約7500万円。

実質的なオープンは4月8日の母校入学式で、この日は保護者の控え室などとして、早速使用される。これに続いて、現役高校生のクラブ活動の場、同窓会関連の資料の保管、事務連絡の場として活用される。

会館建設の声は、20年以上前からあり、議論が続いてきた。平成9年の母校創立120周年を前に、会館建設への機運がさらに高まり、建設計画を視野に入れて、それまでの基金約5000万円を1億円に増額する案が幹事会で決定された。

その後の募金活動などで目標額にほぼ漕ぎつけ、平成22年に「同窓会館建設検討特別委員会」が設置され、建設の可否を含めて議論を重ね、同23年に最高議決機関である幹事会で最終的に承認された。

また、これらの作業と並行して、同窓会役員有志が、広島市や呉市、福山市の高校の同窓会館を視察するなど、検討を続けてきた。

同窓生4万人 絆の殿堂

旧プール跡に完成した同窓会館

7月24日の起工式でクワ入れする八木会長

1階のトイレ。隣に車イス用も

裏側にある非常用階段兼生徒出入り口

玄関横に設置されたリフト

同窓生の資料が展示されるメモリアルルーム

1階の大会議室。生徒300人が入れる

メモリアルルームの内部

玄関に設置された陳列ケース

2階にある事務局内部

悲願の会館に感無量

健全な有効利用を期待

建設特別委
福間委員長

長い歴史と伝統を誇る母校の敷地内に待望の「鯉城同窓会館」が竣工いたしました。全同窓の皆さん、どうぞ足を運んでみてくださいと胸を張ってご報告できることを大変幸せに思います。

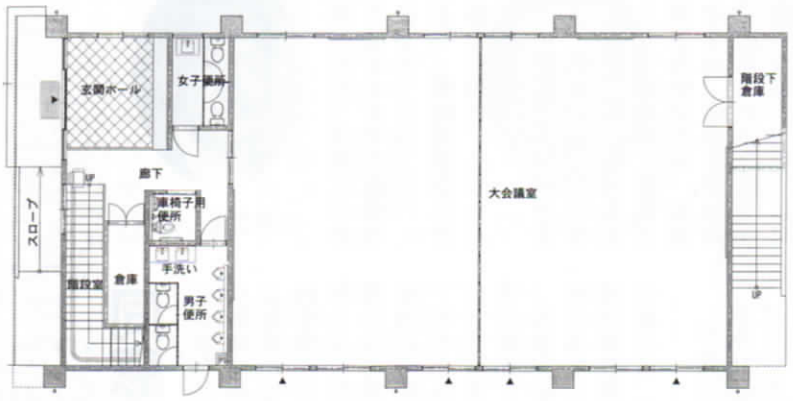
私自身、長年母校の同窓会活動に携わり、創立100周年（昭和52年11月）に続く創立120周年（平成9年11月）の記念式典も体験していま す。そして今回は同窓会館竣工というエポックメーキングな慶事に関係役員の一人として立ち会うことができました。只々〝感無量〟の言葉しか思い浮かびません。

二度の周年行事を契機とした1億円目標の基金づくりにかかわられた多くの先輩方のお顔が想起されます。この基金のいわば果実としての会館誕生でもあったわけですし、後輩たちがやり遂げたこの朗報におそらく目を細めておいででしょう。一昨年の5月でしたか、会館建設の大筋も決まり、顧問の方々への説明会を開催した時、所要でご欠席だった調子先輩（昭和20年卒）にも後日お会いし、「今度こそは建てたいのお」と即座にご賛同をいただき安堵の胸を撫で下ろした嬉しさは忘れることができません。

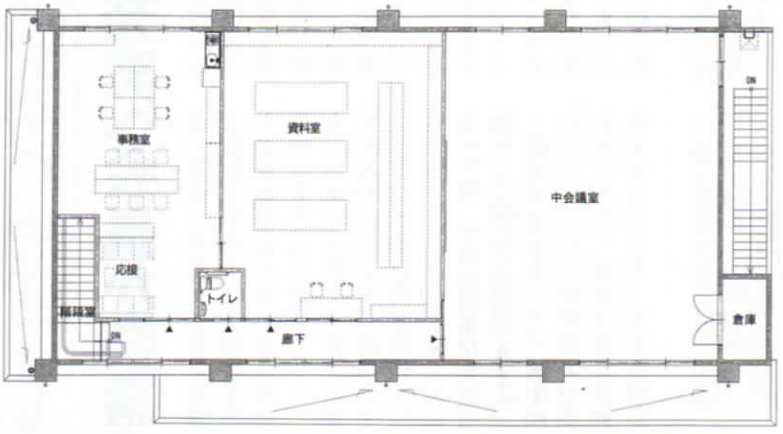
同窓会館建設は長年の懸案でした。悲願でした。そうした中で、プール跡地は当面利用予定が無い―というヒントを与えて下さった大下前校長さんの全面的なバックアップが難問解決の決め手となり、以後平成22年末の検討委員会設置から建設委員会発足へと事態も急進展した一連の経緯については省略しますが、いずれにしても、土井事務局長という教育行政の専門家を扇の要に、七つの特別専門部会も関係役員の皆さんの緊密な連携作業が実に効果的に機能し、建設工事も森信建設さんの手によって予定どうりに進捗―完成をみたことはまことにお見事でした。こうした同窓各位の一体感に支えられての会館完成を心から祝福し、今後の健全な管理運営を期待してやみません。

（昭和24⑤卒　福間駿吉）

鯉城同窓会館　平面図（1階）



鯉城同窓会館　平面図（2階）



建設費・物品の寄贈を

八木忠士　会長

同窓会館充実へ会長が要請

拝啓　寒冷の候　皆様におかれましてはますますご健勝の事と存じます。

日頃より、鯉城同窓会に対するご協力を頂き、心から感謝申し上げます。

さて、広島県立広島国泰寺高等学校は、明治10年（1877年）に「広島県英学校」として広島県に移管され、以後広島県中学校、広島県第一中学校、広島県鯉城高等学校、広島県立広島国泰寺高等学校と改称し、創立以来135年の永い歴史を歩んでまいりました。

その同窓会も「会員相互の親睦福祉」を目的として発足して、現在4万人を超える同窓生を有し、定例の同窓会総会をはじめ、毎月の二木会、関東・関西における支部総会や二水会の開催、また母校への積極的な支援を行い活発に活動しております。

このたび、長年の夢であった鯉城同窓会館については、3年前から具体的に検討を重ね準備してまいりました。昨年7月に起工式を行い、広島県立広島国泰寺高等学校の敷地内に同窓会事務室、メモリアルルーム（展示施設）ならびに会議室（セミナールーム）等を備えています。

同窓会館では、同窓生の交流の場としてはもとより、鯉城同窓会館内メモリアルルームの展示は、数少ない広島の教育・文化・スポーツの歴史的文化財を守るという意味でも、大変重要なものがあると考えております。母校生徒にとっても、母校の伝統を具体的に展示することにより、直に学ぶことができる貴重な教材となります。またセミナールームにおいては、学習の場及び交流の場として幅広く利用できます。

鯉城同窓会として、長年にわたって会員の浄財によって蓄積された、鯉城同窓会基金約1億円のうち、8千万円を仮払いしました。今後も同窓会の円滑な運営、広島県立広島国泰寺高等学校生徒に対しての教育振興のためにも、基金をすべて使ってしまう訳にはいきません。

つきましては、鯉城同窓会会館の建設事業にご賛同いただき、下記の内容について皆様方の力強いご支援、ご協力を賜りますようお願い申しあげます。

寒さもますます厳しくなりますのでくれぐれもお身体に気をつけてください。　敬具

平成25年（2013）1月吉日

広島県立広島国泰寺高等学校
鯉城同窓会会長　八木忠士

1 物品の寄贈について

(1) 一中、広島国泰寺高等学校に関する歴史的な内容の物品の寄贈
※　上記に関与する蔵書、写真等歴史的な物を考えております。

(2) 鯉城同窓会館への物品の寄贈
※　同窓会館で使用できる物品等、特に机、椅子、ロッカー等などがあれば事務局までご連絡ください。

(3) 寄贈等をいただいた方々は、会報にお名前を掲載させていただきます。

2 現金の寄附について

(1) 建設費については、現在の基金及び寄附を持って充てることとしております。
つきましては、別紙の依頼に詳細に記載しております。卒業生の皆様にご寄附のご出費をお願い申し上げたいと思います。振込を原則といたしますので、同封の振込用紙（振り込み料金は無料）にて振込をお願いいたします。

(2) **ご寄附については、「国等（広島県）に対する寄附金」となりますので申し添えます。**なお、**別紙を良く読んでいただき、確定申告では、8―(2)にありますように、払い込み用紙の「控え」（受領書）とこの「依頼文」（写）を添えてください。**

(3) 現金、小切手等での寄附につきましては、同窓会事務局にて受け付けます。その際には、領収書を別途発行いたします。

(4) 上記の(2)の**寄附期間は、平成25年2月1日から26年1月31日の1年間**となっていますのでご注意ください。

(5) ご寄附をいただいた方々は、会報にお名前を掲載させていただきます。

平成24年度、各種の賞を受章された同窓生の方々を11月17日の総会で顕彰した。

《叙勲・褒章関係》

▽瑞宝小綬章（企業・地域功労）
昭和23年卒＝谷本英雄

▽瑞宝小綬章（地域医療功労）
昭和29年卒＝岡本良三

▽瑞宝中綬章
（港湾建設事務功労）
昭和30年卒＝森平倫生

▽瑞宝小綬章（郵政・地方功労）
昭和30年卒＝山本敬一

▽瑞光双光章（学校教育功労）
昭和33年定卒＝故・田部義之

▽黄綬褒章
（車体整備業界功労）
昭和39年卒＝正田健一

▽藍綬褒章（労働委員会功労）
昭和44年卒＝河野　隆

《特別表彰》

▽卒業後年一回の同期会を65回にわたり開催された鯉城如月会（昭和21・23年定卒、広島県立広島第三中学校同期会）

《感謝状》

▽鯉城同窓会への貢献・書の提供
昭和37年卒＝原紺通子

▽旭日双光章（地方自治功労）
昭和23年卒＝長岡進吾

▽瑞宝小綬章（地域医療功労）
昭和24年⑤卒＝山田　實

▽瑞宝中綬章（大学教育功労）
昭和27年卒＝樣本　功

同期会を連続65回　如月会を特別表彰

次代のリーダーを育てる

河田新校長 熱く抱負

河田敦之　校長

鯉城同窓会の皆様には、平素より本校教育活動に温かい御理解、御支援を賜り、心から感謝申し上げます。

本年4月に第36代校長として着任いたしました河田でございます。創立から135年という長き歴史と輝かしい伝統を誇る本校に赴任し、日々身の引き締まる思いで学校経営に臨んでおります。浅学非才ではございますが全力を尽くす所存でございますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、現在、社会の変化は激しく、まさに先行き不透明な時代となっております。そうした中、今、学校教育においては、子どもたちに、変化に流されることなく、自ら考え判断し主体的・自律的に行動できる力を育むことが課題となっています。そしてまた、自らの資質・能力を十分に発揮して、社会の様々な分野でリーダーとして活躍できる人材の育成が求められています。

「旧制一中以来の人間教育の伝統を受け継ぎ、社会の至宝となるべき有為な人材を育成する」ことを使命とする本校への期待は、今後ますます高まるものと考えます。

その期待に応えるべく、目下本校では、「知・徳・体の全般にわたり高いレベルの調和がとれた将来のリーダーを育てる」ことを目標に、「質実剛健」・「礼節気品」・「自治協同」の三つの校訓を基盤に据えた質の高い教育活動の展開に、教職員一丸となって取り組んでいるところです。

体の側面は、人間形成の基本。部活動、体育的行事などを通じて、健康で強靭な身体づくりを図ります。

知の側面では、「『文武両道』を単なるスローガンに終わらせない」との気迫をもち、限りある時間を有効に活用し集中力をもって学ぶという姿勢を指導し、「難関」と呼ばれる国公立・私立大学へも合格できる学力を養成します。また、読書活動の推進などにより、単なる受験学力ではない幅広い教養を身に付けさせます。生徒が生きる今後の社会を展望し、教育内容としては、スーパーサイエンスハイスクール事業を核に、特に理数教育と国際化に対応した教育を重視し、推進します。

徳の側面では、社会に貢献せんとする高い志をもち、自らに厳しく他者に優しい、真に強靭な精神力をもった人づくりに努めます。そのために、体験を豊かにさせ、多様な他者との触れ合いを通して共感性、コミュニケーション能力を育みます。また、学校生活の隅々にまで、挨拶や礼儀の徹底を図ります。

広島国泰寺高等学校は、広島県の教育を牽引する学校として、今後ますます発展してゆかねばなりません。どうぞ、鯉城同窓会会員の皆様方の、ますますの御支援、御協力をお願い申し上げます。

■略　歴■

昭和57年＝県立広島井口高等学校教諭（社会）▽平成元年＝県立加計高等学校教諭（社会）▽平成6年＝広島県立教育センター第二研修部研究員（平成7年は指導主事）▽平成8年＝県教育委員会事務局教育部指導第二課課長（のち指導第二課）指導主事▽平成13年＝同部指導第二課高校教育指導係長▽平成16年＝同課課長補佐▽平成19年＝県立向原高等学校校長▽平成22年＝県教育委員会事務局教育部指導課長

新役員の顔ぶれ

	氏　名	卒年度
顧　問		
顧　問	調子　昭雄	（昭20⑤）
〃	大井　孝三	（昭23）
〃	桧山　且典	（昭23）
〃	田村　鋭治	（昭25）
〃	亀井　郁夫	（昭24併）
〃	新田　篤実	（昭25）
〃	碓井　法明	（昭35）
会長・副会長		
会　長	八木　忠士	（昭33）
副会長	福間　駿吉	（昭24⑤）
〃	奥田　典子	（昭33）
〃	桑野　恭彬	（昭34）
〃	丸山　祐荘	（昭34）
〃	伊藤　暉	（昭35）
〃	山成　宣彦	（昭36）
〃	土井　敏正	（昭36）
〃	三木　武彦	（昭37）
〃	月村　俊雄	（昭39）
〃	渡部　英明	（昭39）
〃	金子　俊介	（昭41）
〃	細川　匡	（昭41）
〃	大石　一朗	（昭43）
〃	吉田　信秀	（昭44）
〃	森信　秀樹	（昭46）
〃	戸田　武弘	（昭47）
〃	桑原佐智江	（昭47）
〃	反田　哲顕	（昭50）
〃	酒井　文一	（昭51）
監査幹事		
	河野　隆	（昭44）
	長野　耕治	（昭50）
常任委員会		
〔総務委員会〕		
委員長	昌子　均	（昭48）
〔運営委員会〕		
委員長	増本　智	（昭47）
〔財務委員会〕		
委員長	桂　秀昭	（昭47）
〔広報委員会〕		
委員長	伊藤　暉	（昭35）
〔資料保存委員会〕		
委員長	田丸　健三	（昭41）
〔母校振興委員会〕		
委員長	反田　哲顕	（昭50）
〔会員委員会〕		
委員長	渡部　公麿	（昭49）
〔一中遺族会担当〕		
	福間　駿吉	（昭24⑤）
〔事務局〕		
局　長	久保木敬子	（昭42）
〔当番幹事〕		
平成24	山本　信博	（平元）
平成25	窪川原康登	（平２）

恒例の応援団の演舞。皆の気持ちが1つになり、気がひきしまります。「鯉城の夕」いつまでも伝承されてほしいものです

八木会長挨拶

河田校長挨拶

い笑顔咲く

e smile

今年の総会にも、全国から多数の同窓生の皆さまにお集まり頂きありがとうございました。

当番幹事として御礼申し上げます。

諸先輩方のご指導を頂きながら、同級生皆が頑張ってくれたおかげで今年度総会を無事終える事が出来ました。

平成24年度の鯉城同窓会は、「フォー・ザ・スマイル～みんな誰かのために～」をスローガンに活動しています。

遠い未来の笑顔のために

そして、ちょっと先の笑顔のために

昨年の東日本大震災の悲しみを乗り越え、全国で活躍する同窓生の皆さんが笑顔になり、二木会の更なる発展を願い活動させて頂いております。

また、我々平成元年度卒業生は、平成になり最初の卒業生です。

20代の笑顔！若いだけで素晴らしく素敵な笑顔ですね。これからもますます輝いていって下さい

61年卒の皆さんが幹事年に植えた植樹。今年はその桜の笑顔も見えるかな？

凛とした姿で、会長挨拶をきかれている顧問の田村鋭治さん。副会長の福間駿吉さん。他役員の皆様

会場いっぱ

For

歴史ある母校の先輩方から受け継がれてきた「バトン」を我々も同窓生ランナーの一員となり、次の世代へ「伝統」として受け継いでいく気持ちで挑んでいきたいと思っています。

総会を終え、卒業から23年経ち社会的にも年令的に折り返し地点である42歳のこの一年に、この様な貴重な経験と同級生との再会、「また一緒にやり遂げよう」と団結出来る場を与えて頂きまして、同級生一同感謝の気持ちでいっぱいです。

我々平成元年度卒業生一同、これからも鯉城魂を胸に刻み、同総会発展のために頑張ってまいりますので、よろしくお願い致します。

平成元年卒　代表幹事
山本信博

今春、ご卒業の皆さん。この初々しい笑顔を新しい同窓会館に運んで来て下さいね

55年卒の皆さんの作成された「プロジェクトR」は、皆さんの笑顔と一緒で永遠に不滅です……

OB講演会

失敗経験や知識を大切に
具体例を交え後輩を激励

元中国放送秘書役　黒田佳代子さん（昭和42年卒）

恒例のOB講演会が、昨年11月13日、母校体育館で開かれた。今年の講師は、昭和42年卒業生で、元中国放送秘書役の黒田佳代子さん。本校在学中は放送部に所属し、中国放送に入社してからは秘書部の仕事が長かった黒田さん。「わたしの引き出し～その大切なもの～」の演題で、失敗談をまじえながら、そこから学んだ教訓や人へのおもいやりの大切さを、落ち着いた優しい語り口で、後輩たちに語りかけた。講演の要旨は次の通り。

「なるべく多くの引き出しを」と訴える黒田さん

私の「引き出し」は大きく分けて3つある。1つは失敗の引き出し。入社当時、私を含めて4人の同期がいた。私以外は、ラジオ局やテレビ局に配属され、私だけが人事部に配属され、まもなく秘書室に移った。秘書の仕事は見よう見まねから始まった。来客があれば、応接室にご案内し、お茶を入れ、それを運ぶ。その手順の一つひとつを、先輩の動きを見て、勉強する。

失敗を繰り返しながら、日にちがたった。そして6年後、ラジオ局に異動になった。ここは専門用語が飛び交う職場で「一」から勉強することになった。ある日、CMテープを取り違えるという大きなミスをしてしまった。上司がスポンサーのところにお詫びにいってくれたが、申し訳なさでいっぱいだった。

上司の懐の深さに感謝するとともに、なぜ失敗したかをしっかり反省し、同じ失敗を繰り返さない工夫を考えるという習慣を身につけた。

その後、再び秘書に戻った。秘書の仕事について、あらためて勉強しようと思い、セミナーに通ったりしたが、いざ現場となるとうまくいかないことが多く悩んでいると上司が「誠意を持って当たればいいんだよ」と言ってくれた。要するに相手の立場に立つことが大切なのだということだ。

2つめの引き出しは、知識だ。秘書の仕事は何が起きるか分からない面がある。慶弔関係をはじめ各分野の決まりごとは分かっていなければならないし、そのうえで変化に臨機応変の対応が求められる。またトップ同士の会食の場所を決めるときも、実際にその店に足を運んで、ランチでも食べてみて、店の雰囲気などを体感しておくことも必要になる。

要するに必要な勉強をしておくこと、自分に足りないものは何かを知って、つねにスキルアップをする努力をしなければならない。

3つめの引き出しは人だ。人との出会いによって、人は成長する。私も秘書の仕事を通じて、各方面の人との出会いがあった。それらの方々の理念や信条を学び、また支えられた。人のネットワークは大きな財産だ。

マナーのことにも触れておきたい。マナーはルールとは違う。ルールは「～しなければならない」となるが、マナーは「相手への思いやりが一番」ということ。マナーには身だしなみや、笑顔、態度などのほか、言葉遣いなど、基本がある。人にしてもらってうれしかったことをする、されていやなことは人にもしない。これにつきる。

みなさんには今から未来がある。どうか健康に気をつけて、元気でがんばってほしい。

私の近況

GANBARISM

昭和24年卒　原田康夫

（広島市中区小網町）

8年間の広島大学長から広島市に移り、7年間の広島市病院事業管理者の時、広島市民病院をアートギャラリーホスピタルとして新、改築し、広島市総合リハビリテーションセンターも清風新都に作った。それから、広島市の文化をということで、広島市未来創造財団常任顧問理事と広島市現代美術館館長を務めて5年になります。

昨年（2012）は81歳のチャリティー・リサイタルをアステールプラザ大ホールで5月21日に公演し、その収益金を10月30日から、仙台、福島、盛岡の東北3県に中国新聞社とともに出かけ、宮城県庁に300万、福島県庁と岩手県庁にそれぞれ、100万を被災遺児の奨学基金として寄付してきました。

また新作オペラ「遣唐使」の李白役も8月11日に無事終え、5月20日、国連合唱団の公演の実行委員長としてこれを成功させました。現在は医師というより文化で社会貢献をしています。

昭和28年卒　中澤　潔

この3月で卒業60年になる。人生は終章に入り、一昨年10月末の在京同期会は17人が出席、新たな訃報があった。

母校は私に歩むべき道を導いてくれ忘れ難い。宇品港で覚えた泳ぎが元一中のプールで開花、大学進学―スポーツ記者へと進んだ。水泳と相撲は「同じ裸」だからと相撲記者に引き込まれ、以来半世紀のライフワークとなっている。

昨夏のロンドン五輪で競泳陣の活躍は、我がことのようにうれしく、水泳ニッポンの復活を願わずにはいられない。

国技・大相撲は3年前の八百長発覚でどん底に落ち、なお立ち直りの兆しは見られぬ。極に達した角界の乱れを、「大相撲は死んだ」（宝島新書）にまとめたが、危機感は薄い。得意技を身につける地道な稽古は途絶え、目先の勝負に一喜一憂する取組の繰り返しではファン離れは止まらぬ。見る者の心を打ち、国技にふさわしい熱闘を取り戻すしか生き残りは難しかろう。

駆け出し時代、おおらかに受け入れてくれた親方たちの恩に報いるには、敢えて苦言を呈すのも必要と土俵を見守り続けている。

（千葉市花見川区）

昭和30年卒　末長邦夫

同期の文集『えにしだ』の編集者の副やら責任者として携わっていましたが、36号をもって中止になりました。思い起こせば、元旦には同期生の手元に届けるために、年末にはてんてこ舞い。懐かしい思い出です。

朝、ラジオ第2を聞きながら散歩。以前は軽く走ったりしていたのですが、最近はゴミを拾ったり、雑草を抜いたりして、冷水シャワーを浴びてから食事です。これが健康に幸いしているのか、特に悪いところはなく、風邪を引いても軽く済んでいます。

歌のレッスンを受けるようになってから、15年が過ぎようとしています。

3年ぐらい前から、少しは音らしくなってきたので、同級生に聞きに来てもらいました。最近は、年1回の定期演奏会のほかに、お声がかかるようになりました。いずれにしても片想いの歌が多いようです。

ほかには、広島掃除に学ぶ会に参加し、月に1、2回主に小中の学校でトイレを磨いております。

（広島市中区幟町）

昭和32年卒　巻幡康子

突然原稿用紙が送られて来て近況をと問われ、ハテサテ？振り返って見ましたら、まず何を軸に生きて来たのかなと自分に問いかける事になりました。

いつも名前の下の漢字はと聞かれた際に家康の康ですと答えていたせいで家康の遺訓の『人の一生は重荷を背負いて遠き道を行くが如し…及ばざるは過ぎたるよりまされり』とあり、いつの頃か胸にきざみ、苦労、悩み多き時、人間の通る道は皆同じ当り前の事として逞しく生きて来ました。

今は以前に同期会でハワイに行きましてから機会ある度に外国の世界遺産巡りに参り、これも体力確認になりますし山陽道やしまなみ道の高速をそれなりに飛ばして、詩吟を口ずさんでは嫌われ、下手な絵を描いては捨てられ、こりずにまだ〳〵世の中おもしろき事あるとお呼びでないと云われながら日々を楽しんでます。孫世代の若者の介護を受けぬよう、最期まで自己管理に努めてまだしばらくは生き生きと過ごしたいと願ってます。感謝の一言あるのみです。

（尾道市因島重井町）

（10頁へつづく）

昭和33年卒　津田紘吏

今年の夏は、かってなかった程の暑さが続きましたが、やっと秋風が感じられる様になり、ほっとしているところへ鯉城同窓会より一通の封書が届きました。見てみると「私の近況」という原稿依頼でした。想えば昨年秋、叙勲の栄に浴し、鯉城同窓会総会において、会長より顕彰状をいただき早や一年が経過いたしました。この時の会長は同期の八木君であります。この年昭和33年卒の同期の者が三名叙勲を授かり、表彰するのは同期の八木会長という、まことに不思議な縁でした。我々33年卒は「紫旗の会」という会を持ち二木会と同じように毎月一回定例会を開き、季節ごとに花見、ビアパーティー、忘年会等で親睦を深め、又趣味の会も活発に活動しており、皆さんからうらやましがられております。これも一重に市内在住の世話人のお陰であると常々感謝しているところであります。最近は朝早く目が醒める様になり、六時半に起床し会社経営のかたわら、業界又地域のお世話をしたり友達と逢ったりと楽しい日々を過ごしており、これからも元気で人々のお役にたてる人生を送りたいと願っている昨今である。

（江田島市能美町）

昭和38年卒　土井悠子

大学卒業後約42年働き、広島市立大学を退職し2年前から年金生活です。あまりはっきりとした目標も持たないまま踏み出した、やや迷走気味の職業行路でしたが、終わりの16年は若い人たちに英語（英文学）を教えるという機会を与えられ、心躍る時を過ごすことができました。

これまでを振り返ってみると面白いことばかりではありませんでしたが、それらが自分をここまで成長させてくれたと思える自分でいたいと、自らに言い聞かせている昨今です。自由な時間をもてるようになった今、新たな自分に生まれ変わろうと思っています。最近水泳を始め、四泳法で何とか泳げるようになりました！父や叔父2人も同窓生である国泰寺高校に、私は2年生の新学期に転入しました。そのせいか、母校という気持ちがすこし薄いかもしれません。今後は同窓の方たちとも交流を持ちながら、できるのであればすこしは人様のお役に立てるような日を過ごしていきたいと思っています。

（広島市中区千田町）

昭和42年卒　稲岡真弓

晴天に恵まれた10月13日、鯉城関西同窓会の「史跡めぐり」に参加しました。奈良市内の史跡を徒歩で巡る企画でした。参加者は年配の方から三十代までとりどり、30名余り。秋とはいえ汗ばむくらいの天候でした。

先ず訪れたのは薬師寺。お坊様から寺の縁起をユーモアを交えて教えていただきました。驚いたことに、薬師寺は、檀家を全く持たない寺で、寄付によって維持しているとのことでした。現在、国宝の東塔は解体修理中で覆いが掛けられ、見物は出来ませんでした。修理が終了するのは七年後との事でした。

すぐ近くの唐招提寺を横に見つつ、平城宮跡まで歩きました。広大な敷地跡には新しく建てられた大極殿があり、はるか古の景観を思い描きました。最後に秋篠寺にたどり着きました。柔和な伎芸天のお顔を拝見し、国宝の本堂のなだらかな屋根の傾斜に、当時の人々の美意識の高さを感じました。

長時間の歩行で少々疲れましたが、皆さん元気で、楽し

（11頁へつづく）

平成23年度決算報告書（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

Ⅰ 一般会計

（単位：円）

収入の部		支出の部			
前年度繰越金	7,415,635	会報費	1,781,706	水道、光熱費	39,588
入会金	999,000	事業費	215,454	慶弔費	70,650
終身会費	4,154,000	人物録作成費	86,590	備品費	91,885
年度会費	53,000	会費請求システム維持費	42,835	顕彰費	133,980
寄付金	76,000	助成金（二木会）	900,000	教育振興会計へ繰り入れ	0
利息収入金	339,401	事務費	1,000,160	慰霊碑献花代	39,025
50周年ＣＤ販売入金	18,000	消耗品費、雑費	167,963	税金	130,700
雑収入	21,258	印刷費	124,267	次年度繰越金	8,524,708
総会・二木会余剰金	600,000	通信費	196,299		
		会議費	130,484		
収入計	13,676,294			支出計	13,676,294

Ⅱ 基金予算

1．鯉城同窓会基金

（単位：円）

前年度繰越金	82,000,000
次年度繰越金	82,000,000

2．教育振興基金

（単位：円）

前年度繰越金	16,500,000
次年度繰越金	16,500,000

Ⅲ 教育振興特別会計

（単位：円）

収入の部	
利息収入	0
他会計より繰り入れ	0
収入計	0

支出の部	
全国大会出場助成金	0
クラブ活動助成金	0
支出計	0

Ⅳ 事業特別会計

（単位：円）

収入の部	
食堂、自販機等手数料	0
収入計	0

支出の部	
事業費	0
水道・光熱費	0
電話利用料、雑費	0
税金	0
教育振興会計へ繰り入れ	0
東日本大震災義援金	0
支出計	0

私の近況

GANBARISM

い秋の一日を過ごすことができました。

（京都市西京区大枝北福西町）

昭和50年卒　大形文明

私は広島市内で小さなホテルを営んでいます。若いときは嫌で嫌で堪らなかったこの仕事が、最近では殊勝にも「好いホテル」にしたいという気持ちになってきました。諦観の積み重ねの果ての結果かもしれません。

ホテルの仕事はドラマのようなカッコいいものではありません。大半はベッドメイキング、風呂やトイレの清掃など地味な仕事で、クレームの処理に追われることもあります。ただ、トイレのような汚いと思われている場所を綺麗にすることこそがこの仕事の真骨頂のような気もします。せっかく来られたお客様に快適に過ごしてもらうことが第一です。

たびたび、いや時折、いや正直めったにないのですが、お客様に「ありがとうございました。また来たいです。」と、こちらが恐縮してしまうほど丁寧な挨拶をされて帰られる方がおられます。そんな言動がよれよれの五十男の心に滲みます。

ホテルは時代に合わせて変化しなければ生き残れません。ただ、高校時代の想い出は変化しません。想い出の中の友の顔は若いままです。入学式の応援団の気迫、クラスマッチ、今では考えられない列車の座席で就寝する修学旅行、古文の授業で先生に当てられて冷や汗を掻いたこと、山口県室積での遠泳で泳ぎ終わった直後のお茶の美味しかったこと等々。そんな想い出の断片が、日常の多忙な中のコーヒーブレイクの時などに蘇ったりします。その断片の一枚一枚が癒してくれるのです。戻れるものなら何度でも戻りたい高校時代。恩師や周りの友に感謝です。

（広島市中区羽衣町）

昭和57年卒　高野裕司

今年度より、母校の広島国泰寺高校で勤務させていただいています。「ふるさとは遠きにありて思ふもの」という詩の文句がありますが、母校にもそうした一面があると思います。特にこの仕事に就いていると、「行ってみたくもあるが、できれば行かずに済ませたい学校」であることは確かです。私は、ご縁があって本校に帰って参りました。昔と変わらない国泰寺高校、変わった国泰寺高校の両方を目の当たりにしています。

昨年の入学式で久しぶりに本校の校歌を、感慨深く聴きました。まるで自分自身が改めて入学したかのようにです。原爆による壊滅からの復興と、戦後の新しい時代への期待を込めて作られた校歌が、懐かしくも新鮮に響くのです。現在も進路の仕事をはじめ、慣れないことばかりですが、自分に与えられた、さささやかな役割を果たしたいと思っております。以上、誠にお粗末ではありますが、近況（というより心境）を綴ってみた次第です。

（広島市佐伯区美鈴が丘西）

昭和59年卒　伊藤玲子

県立高校の英語の教員になって20年になりますが、平成22年より母校である広島国泰寺高校に赴任しました。スーパーサイエンスハイスクール事業の国際交流の担当になり、アメリカにある研究協力校のBCA校（Bergen County Academies）と生徒たちの研究交流のサポート等をしています。昨年10月には修学旅行の引率で、5月には共同研究実施のためアメリカに行ってきました。11月20日に国際会議場で行われたSSH事業報告会では、NASAより宇宙飛行士のカマーダ博士をお招きし、記念講演をしていただきました。

生徒たちもALL Englishでの発表をがんばりました。高校時代、同じ教室で海外との交流を夢見ていた自分が、今度は、後輩と海外とをつなぐ仕事に就けたことは幸運です。国泰寺高校が、伝統を重んじつつ、海外に開かれた国際的な環境の学校であるよう、私もがんばろうと教壇に立つ毎日です。

（広島市西区南観音）

昭和61年卒　上向　昇

北海道札幌に来て23年。なかなか「性根」が入ったお好み焼きに巡り合うことができず、それならば「わしがやるしかない」と一念発起し、今の店をオープンさせたのが10年前。原爆の災禍から復興した広島市民の食生活を支えたソウルフードであるお好み焼きを食べて頂こうと一枚一枚に「性根」を入れて焼いてきました。

北海道で唯一「カープ」を応援している店として、マスコミ等に取り上げられ、近隣の方々をはじめ、広島出身の方やカープファンに支えられてきました。自分のお店を通して、お客様と交流できたり、関わりを深めたりすることはとても嬉しいことです。

一昨年には、お店に来てくれている広島出身者が中心となり、「北海道広島県人会」を発足させました。これからも広島出身の方に「本物じゃね」と言われるようなお好み焼きを焼きたいと思います。そして、お客様に感動と喜びを味わって頂き、自分も共有できるよう精進して行きたいと思います。

（札幌市厚別区もみじ台）

卒業50年 母校を訪問

昭和37年卒

昭和37年卒業の我々「国泰寺高校37会」にとって、今年は、高校を出てから50年の節目の年。そこで「37会同期の集い」（「アテネ大会」以来オリンピック年に開催）、母校訪問、そして「鯉城同窓会」へ大挙しての出席等、同期・同窓会企画を11月16・17日2日間の日程で行い、延べ50余名が参加し大いに楽しみかつ気勢を上げた。

先ずは16日18時から「37会同期の集い」、卒業以来、初めて出席した数名は、しばし浦島太郎なれども、時の経つのも忘れ当時の思い出話に花が咲くほどに、頭の中は50年前にタイムスリップ、ホテル内で2次会、3次会、床に就いたのは午前1時を回っていた。

翌17日は、呉・音戸界隈のバス小旅行を楽しんだ後、懐かしきわが母校の訪問。当時の建物は全く残っておらず、やや寂しさを覚えたものの、化学教室では現在の授業の状況等を先生からお聞きし、往時と比較しながらしばし談笑、50年前の面影を残していたグラウンドの土の感触を確かめつつ、スタンド、部室、プール、テニスコートの事等数々の想い出を語り合い当時を懐古した。

愈々最終章は、「平成24年度鯉城同窓会」、定時制の仲間も加わって総勢40余名が登壇、吉井代表幹事のリードで声高らかに乾杯の発声、特報でみる写真は壮観であり、壇上での気分は実に爽快であった。「鯉城の夕」の大合唱で全て終了と思いきや、足は自然に流川へ、昨日から数えて5次会目、最後に関東在住の仲間とお好み焼きを食べて、名残を惜しみながらも家路へ、50年の時空を超えた実に愉快な二日間であった。

昭和37年卒　長田匡司

同期会だより

東京紫旗の会 盛況31名参加

恒例の同期会を風薫る五月晴れの一日、原宿東郷会館水交会で開催した。今年も31名（男性24名・女性7名）の参加で例年通りの盛況な同期生会となった。久し振りの参加者、大病からの生還者ありで、互いの元気を確認、喜びを分かちあった。

開会に先立ち、永く会長として当会の発展に貢献してくれた森岡勝義君を昨年失い、一同彼の冥福を祈って黙祷した。

このところ、年の所為か僧侶の資格を持つT君の人生訓話に頷くメンバーも多く、今尚退官後も学問の道を究めようと学び続けるA君、体の管理の大切さを強く訴えるK君等、細事にとらわれず、心豊かに第2、第3の人生を生き抜こうというメンバーの意欲を感じさせられた会でもあった。

当会も発足以来40年近くなり、固定幹事では負担が多いことから8年前より幹事持ち回りとなって、2順目を迎えることになったが、長寿社会を生きられる幸せを思うと、会の火を消すわけにもいかないと言う皆の願いから、すんなりと次期幹事（2組）も決定、来年も元気で参集を約し散会した。

今年は都合で参加できなかったメンバーも、例年5月の最終土曜日（25年5月25日）、場所も同じ原宿の「水交会」で、開催しているので級友誘い合わせて、次回は是非の参加を待っています。

昭和33年卒　新宅　隆

300名が参列 一中慰霊祭

昨年7月22日母校一中慰霊碑前で原爆死没者慰霊祭が関係者約300名参列してしめやかに営まれた。平成元年と2年の卒業生によって式典が進められ、河田敦之国泰寺高校長、福間駿吉同窓会副会長、宮迫由佳国泰寺高校友会会長の追悼の辞が捧げられた。出席者全員により献花が供えられ、鯉城ステアコールの「ひろしま平和の歌」「青い空は」「鯉城の夕」が献歌された。

編集後記

同窓生4万人の思いの詰まった鯉城同窓会館―。小生が建設実現にかかわり始めたのは松井五郎会長の時でした。当時も広報を担当しており、会長の提唱で建設資金1億円の募金キャンペーンを同窓会報でスタートさせました。当時は年2回の発行で諸先輩方の会館実現への熱い思いや会館のイラストなど掲載したのが懐かしく思い起こされます。その後、紆余曲折があり一向に実現しない会館に忸怩たる思いがしておりましたが、やっと夢が実現しました。同窓生の絆の拠点として……在校生にも集会や自習ルームとして大いに活用してほしいものです。（伊藤）